

第30卷・第1号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和57年1月1日（毎月1回1日発行）

# 牧草と園藝



1

青印種苗株式会社

# 1982年の新春を迎えて

明けましてお目出度うございます。

『牧草と園芸』読者各位の益々の御健勝と御発展をお祈りいたしますと共に、日頃の雪印種苗に対する御愛顧に心から感謝申し上げます。

新年を迎え、本年も楽しい日々を過したいと願う心は誰しも同じであります。変転する厳しい世情に立ちむかうためには新たな決意が必要でありましょう。特に農業をとりまく環境は、農産物需給の不均衡に加えて、国際的な影響や予想せざる異常気象に災いされる恐れもあり、変動や競争に耐える心構えとその体制づくりが、今年はより強く要請されているのです。

皆さんが営々と生産した農産物は、1億1,500万人の生命を支え、活動のエネルギーを生み、日々の豊かな生活に欠くことの出来ない重要物資ですが、農産物の自給率は40%そこそこと言われて居りながら、現実には生産過剰の声におびやかされているのは何としたことでしょうか。

政府は農業技術を開発し、手厚い助成策を講じ、農産物輸入を規制して国内農業の振興を図っていますが、他面、消費を考えない無計画な増産、品質・嗜好を忘れた生産、あるいは輸入農産物との価格競争への対応が必ずしも充分でないことも否定出来ません。

戦後35年を経過して、我が国の農業は規模的には小さくとも技術的には飛躍的に進歩し、その生産力は世界のトップレベルに達したと言われています。然しながら農産

物の生産コストや消費者価格では、輸入農産物との競争に負けているものも少なくありません。

そこで、もう一步、生産物の質を高め、同時に生産コストを下げる工夫と努力が、消費者の要求に応じて消費を促進し、同時に輸入の抑制にも役立ち、変動や競争に耐える安定経営確立のきめ手になることを再認識する必要があるのではないのでしょうか。

皆さんは、愛する大地をしっかりと踏まえ、たとえ立地条件が悪くとも、又規模拡大や近代化のために負債を背負っていても、過剰な投資をひかえ、たゆみなく土地を肥やし、適地適作、作物の品種をえらび、家畜の能力を高め、自給飼料を増産して購入飼料とのバランスをとり、健康な作物や健康な家畜から、競争力のある生産物を出荷して、安定経営へと着実な歩みを、今年も前向きに進めて行かれるために決意を新たにされておられることでしょうか。

このような経営強化のために、雪印種苗の種子や飼料はきっと皆さんのお役に立つものと確信しています。

草地の造成・更新整備に、飼料作物の輪作あるいは水田転作に、いつでも皆さんのご相談にのり、必要な時に必要な情報と共に、役に立つ種子や飼料を早速お届けいたします。

新春を迎え、重ねて読者各位のご発展を祈り、今年も雪印種苗は、技術と誠意をこめて、この『牧草と園芸』を皆様にお届けすることをお約束しご挨拶といたします。

昭和57年元旦

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 中野 富雄